



四国通建株式会社

●わが社のCSR活動

CSR

地域に密着したCSR活動

四国通建株式会社



1. はじめに

昨年は創業70周年という節目の年を迎えました。創業以来「良質」「敏速」「経済」を社是（写真1）とし、高い品質の設備を少しでも早く、安くお客様に提供することを使命と考えてきました。

今日のグローバル社会の中で、弊社を取り巻く環境は複雑多岐にわたり、お客様から求められるものも多様化してきています。そうした期待に応えることこそが弊社に課せられた責務であり、社会的責任であると考えます。

私たちは社会の一員として地域との共存共栄を図っていくため、法令遵守はもとより、コーポレートガバナンスを充実し、高効率かつ健全な企業運営を推進します。

さらに、社会規範や地域支援をも視野に入れ、高い信用・信頼を得るべく企業倫理の確立に努め、企業価値を高めていきます。

2. 行動指針

私たち1人ひとりが企業価値を高めるためにどう行動するべきかについて、9項目の「行動指針」（写真2）を定めています。

各項目とも、「私達は」を主語として、法令遵守やお客様への感謝、環境、安全への取組み等が謳われており、仕事への取組み姿勢や判断のよりどころとなっています。

これを各事務所に掲示するとともに朝礼時に唱和することにより、指針に込められた想いや理念を噛み締め、日々の業務に反映させるべく努力を重ねています。

3. お客様満足に向けた取組み

お客様から信頼される会社への取組みとして、「プロフェッショナル工事運動」を展開しています（2015年5月号に関連記事掲載）。

この運動は、全社員が通信設備工事のプロフェッショナルとして原点に立ち返り、安全と品質に責任を持った工事を推進する意識を共有・

浸透させる目的で、「プロフェッショナル工事運動」と命名し、この運動のもとで各種安全施策を展開しています（写真3）。

この「プロフェッショナル工事運動」の中では「3つの誓い」を設定しています。

- やるべきことは、キッチリやる。
工事手順・工事規格の遵守、安全の確認・確保を徹底する。
- やってはいけないことは、絶対にしない。
近道行動、指示なし工事は絶対にしない。
- 迷ったときは、工事を止める。



写真1 社是

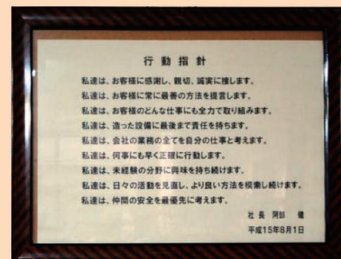


写真2 行動指針

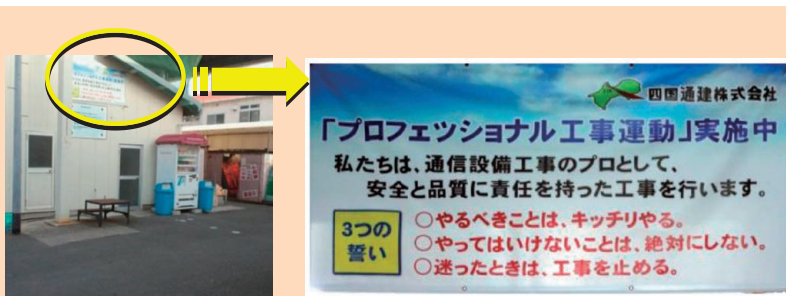


写真3 プロフェッショナル工事運動スローガン

勝手な判断はせず、迷った時は工事を止めて再確認する。

この運動の中で、安全意識・当事者意識を浸透させるために経営TOPが各工事事務所の安全集會に参加したり、コミュニケーション強化のために管理者と班長の対話時間を設定したり、また、指示内容を確実に伝達・実施するために2Wayコミュニケーション手法を学習したりと、あらゆる方面から人為事故発生防止に向けた取組みを行っています。

プロフェッショナル工事運動を始めて約3年半、こうした努力が徐々に実を結びつつあると感じていますが、安全の取組みに終わりはなく、これらの取組みが形骸化しないよう、より一層の努力を重ねていきます。

4. 地域活動への参加

(1) 清掃活動／スポンサー事業

長い歴史を超えて地域と共存し継承されてきた四国八十八箇所にな

んだ道路の清掃活動として発足した毎年8月8日の「88クリーンウォーク四国」(主催：NPO法人四国の道路サポータークラブ、NPO法人四国CINC)には、「もっときれいに、気持ちよく」の思いを込め、全社を挙げて参加しています。

本社はもとより、各支店、各工事事務所とも、出勤前の早朝から最寄りの各モデルコースや自由コースに集まり、1時間程度の清掃活動を行っています(写真4)。

こうした活動の様子は、地元の新聞に取り上げられ、関連するホームページにも掲載されています。

また、愛媛県が提唱する『愛ロード運動、愛ビーチ制度』にも賛同し、共有財産である道路をみんなが安全で気持ち良く走れるように、美しい砂浜がいつまでもきれいに保てるようにとの思いを込めて参加させてもらっています。

その他、『えひめ愛ロードスポンサー事業』にも参加し、道路の照明灯の設置にも協力しています。

設置した照明灯には協力した企業名の入ったプレートが取り付けられ、会社近くに「この照明灯は四国通建(株)の協力により設置しました」の看板のついた照明灯が何本か設置されています(写真5)。

設置当初、その前を通るときには誇らしくもあり、気恥ずかしくもありといった複雑な感覚を持ったものですが、今では時間経過とともにその照明灯が風景に溶け込み、街になじんでいくように感じています。

さらに、弊社では子どもたちが健康やかに成長していくことができる環境をつくるための取組みの1つとして展開されている『子育てファミリー応援ショップ事業』にも協賛しています。

この事業は、妊婦や小学校就学前の子どもがいる世帯(子育て世帯)の方が、この事業に協賛する店舗で買い物をすると、割引や特典サービスが受けられるというものです。

こうした事業に協賛することにより、未来を担う子どもたちを応援することも、地域とともにある弊社の大事な役割ではないかと考えています。

(2) インターンシップ

毎年、中学生、高校生、大学生を対象にインターンシップの受け入れをしています(写真6)。

学校教育で不足していると言われる就業体験の場を提供し、学校から職場・社会への円滑な移行の手助けをするとともに、仕事とは何か、社会とは何かなどについて考える場を提供することは、学生本人だけでなく、社会貢献にもつながるものと考えています。

弊社にとっても、インターンシップの学生が職場に加わることで、今までにない刺激がもたらされ、一時的にでもその職場が活性化され、新しい視点や価値観が生まれます。



写真4 88クリーンウォーク



写真5 道路照明灯



【中学生】



【大学生】

写真6 インターンシップ

今後とも、学生、学校、社会に役立つ貢献活動として、窓口の充実や実習体制の強化等に積極的に取り組みたいと考えています。

(3) 地域イベントへの参加

本社のある今治市では、毎年8月最初の土曜日と日曜日に『おんまぐ』(今治市民の祭り)があり、今治港とその周辺を中心に市民参加型の踊りやダンス、獅子舞、太鼓演奏、打ち上げ花火などの多彩なイベントが行われます。

弊社では、例年、100人を超える規模で、ダンス(ダンスバリサイ)や踊り(木山音頭)に参加させていただき、地域の皆様と一緒に祭りを盛り上げ、楽しんでいます(写真7)。

また、祭りの参加者や見物客の安全確保のための標識やバリケード等の保安施設を提供するとともに、その設置や撤収という地味な作業にも多くの社員が参加し、地域行事を支える裏方としても地道な努力を続けています。

以上のような、清掃活動やスポンサー事業、地域行事への参加といった活動は、地域に根差し、地域に育てられた会社としての責務であると考えています。

社員1人ひとりが自分たちの力が地域に届くことに喜びを感じ、貢献できることに誇りを持てるような企業風土、企業文化を育んでいきたいと思えます。

5. 環境保護への取り組み

2001年ISO14001を導入し、以下の「環境方針」を定め、環境保護への取り組みを展開しています。

1. 環境影響を明確にし、工事現場も含め、汚染防止に努め継続的な改善を図ります。
2. 環境保全に関する法令などを遵守します。

3. 環境負荷の低減に向けた目的・目標を定め、定期的に見直しを行います。

4. 工事現場では環境保全に努め、周辺の地域環境に配慮した施工を行います。

5. 事業活動による廃棄物の発生抑制、リサイクル向上及び適正処理を推進します。

6. 地域の緑化・街の美化などに積極的に参加します。

年度当初に本方針に基づく目的・目標および達成のための具体的施策を定め、全社を挙げて目標達成に向けた取り組みを行っています。

その1つが前述の「88クリーンウォーク」や「愛ロード運動、愛ビーチ制度」への参加ですが、その他、工事現場での廃棄物の分別や事務所周辺の清掃、紙資料の削減、クールビズ、ウォームビズ等できることから実施しています。

自然保護活動については、水や森を大切にとの思いから、蒼社川の源流近くにある40ha余りの森林を大切に守ってきました。

これからもこの森を守り続けることが、かけがえのない水資源や豊かな緑を次世代に引き継ぐための大きな役割であると考えています。

また、愛媛県内でも有数の花見スポットである玉川湖(ダム)のほとりに弊社所有の土地があり、「STKの森」と名付けて10数年前から何回かに分けて桜の植樹を行ってきました。

ここには以前から数十本の桜があり、隠れた花見スポットの1つとなっています。民家に近いこともあり、地元の人が周辺に花を植えるなど、地域の皆様からも親しまれる憩いの場となっています。

毎年2回の下草刈りなどの維持活動を行っており、小さいながらも、今後とも地域住民の皆様にあされ続ける「STKの森」となるよう継続した活動を続けていきます(写真8)。

6. コンプライアンスへの取り組み

- (1) コンプライアンスパトロール
コンプライアンス推進室と各部の



【ダンスバリサイ：四国通建「光隊」】



【木山音頭：四国通建「雅連」】

写真7 おんまぐ



【下草刈り】



【満開の桜】

写真8 STKの森

コンプライアンス担当者（各部1名を任命）を中心に、コンプライアンス啓発活動を展開しています。

特に毎年5月はコンプライアンス強化月間として、重点項目を定めた点検やパトロール等を実施しています。

昨年の5月には、重点項目を「廃棄物の適切な取扱い」と定め、委託契約から保管、運搬、処理の各段階で適切な取扱いを行っているか、適正な処理を行っているか等について、コンプライアンスパトロールを実施しました（写真9）。

また、11月には（公社）建設荷役車両安全技術協会が主唱、厚生労働省、経済産業省が後援、中災防、建災防などが協賛する「特定自主検査強調月間」に合わせて、現場への持込機械について、特定自主点検の実施日、検査記録の3年間保管の有無、月次検査、作業前点検の実施状況等について調査しました（写真10）。

コンプライアンスパトロール、持込機械の調査ともに改善が必要な事

項が何件かありましたので、その場ですぐに指導し対応してもらうとともに、再発防止に向けた対策も実施していただきました。

何カ所かに分かれた電柱置場や廃棄物置場の状況や、持込機械の月次検査記録の3年間保管等、広範囲であったり長期であったりするものを適正な状態で維持していくためには、他部署で実施するパトロールや調査も有効な取組みの1つであると考えています。

コンプライアンス強調月間に合わせたコンプライアンスパトロール、特定自主検査強調月間に合わせた持込機械の調査とも、今後も継続して実施していきます。

また、情報収集と意識喚起を兼ね、年末から年始にかけてコンプライアンスアンケートを実施しています。

アンケート結果は、コンプライアンス担当者で分析し、次年度のコンプライアンス強化月間の重点項目の設定や研修資料への反映に努めています。

ます。

(2) コンプライアンス研修

コンプライアンス研修については、まずは新入社員の入社時にコンプライアンスの概要研修を行います。

それ以降の年間研修としては、個人情報保護研修、NTT様からのCSR研修、セキュリティ研修等の集合研修に合わせて行う研修と、部署ごとの技術研修等に含めて行う研修とがあります。

通常は、コンプライアンス担当者や各部から任命された社員が講師を務めますが、テーマによっては外部講師をお願いすることもあります（写真11）。

毎年の研修テーマについては、アンケートの情報をしっかりと分析するとともに、不適切な事例から得た教訓の風化防止を意識して、適切なテーマをタイミング良く実施できるよう心掛けています。

7. おわりに

CSR活動は一時的なものではなく、継続した活動が大切です。

しっかりと社会的責任を果たし続けることが求められる中、ここで紹介した活動の継続に加え、これまで情報通信分野や建設・建築工事等を通じて蓄積したノウハウや人材などの経営資源を活かし、弊社のCSR活動をもっと広くもっと深く展開し、より質の高い活動へとつなげたいと考えます。

そうすることで、ご発注者様や地域社会から、より信頼され、より頼られる会社へと成長していけるものと考えています。

社会の一員として、社会的責任、社会的貢献を精一杯果たし、地域の皆様と共存共栄していくために、全社を挙げて一層の努力を重ねてまいります。



【廃棄物置場】

写真9 コンプライアンス強調月間



【点検シール】

写真10 特定自主検査強調月間



【心理士 メンタル指導士 幸田 裕二先生】



【グー・チョコキ・パー体操】

写真11 研修会：職場のコミュニケーション